

第10回 農業Week 開催中！

10月14日（水）から16日（金）まで、千葉県の幕張メッセにてアグリビジネス関連中心の展示会が開催されている。弊社は2013年より単独のブースを設けて出展し続けて参りましたが、コロナウイルス感染症予防対策の観点から本年の出展はやむを得ず見合わせをさせて頂いた。よって、今回は出店企業の立場ではなく、見学者の立場で初日の様子をレポートしたい。

農業Weekは農業資材EXPO・次世代農業EXPO・6次産業EXPO・畜産資材EXPOの4部門で構成されており、農業関連の展示会では国内最大級の規模を誇っている。今回は新型コロナウイルス感染症予防の観点から弊社と同じような対応を取ったと見られる企業や自治体が多かったせいか、前年度と比べて出展社数は主催者発表の680社から370社（当日の展示ブース位置表から試算。オープニング時に空ブースとなっている出展社含む）と出展社数は減少している。会場中のラウンジブースが増えたり海外からの出展企業数も明らかに減少しているが、それでも農業関連の展示会としては依然として国内最大規模を誇るイベントだ。全て悪いのは主催者や出展企業ではない。新型コロナウイルスだ。

さて、同展示会は農業肥料・園芸品・農薬・梱包・被覆資材・鳥獣害対策・畜産資材・農業機械・施設資材のブースが展開されている。昨年と同様、スマート農業関連の取組、その現状と課題に関するセミナーが催されている。今回は33講演が予定されており、初日のセミナーは盛況であったよう

だ。昨年と違うところはドローンを展示する会社は3社ほどあったが、昨年のような賑わいはない。また、昨年は通信機器会社や家電メーカー、水耕栽培などの施設展示を行うブースが賑わいを見せていたが本年は多くの企業が出展を見合わせたためだろうが、初日を見た限りではアシストスーツを展示するブース以外はどこかのブースが人だかりになっている様子でなかった。肥料関連では今年も数社出展されていた。主催者からの案内では海外からの出展社も数多く記載されていたものの、実際に足を運んでみて出展社ブース一覧を見たところ出展されてなかったりしている。案内状は印刷するために早く用意しなければならないためか、途中で已む無く参加を断念した出展予定者も数多くいたのであろうと拝察した。1廻り会場を見学した中で土壌・肥料関係で興味を持った出展社があった。それは「TOYOTA DAIHATSU」だ。自動車メーカーが展示していたのはリアルタイム土壌センシング機だ。トラクターの後ろに分光器を牽引する形で現場で土壌分析するのだという。作業はトラクターを運転する1名のみだ。土壌分析は近年簡易なキットが出て来ているものの、外部に分析を委託すれば早くても1～2週間は待たないと分析結果は受け取れないだろう。これが30項目の分析は可能で、水田土壌で良く分析されるpH、EC、有効態リン酸、CEC、腐植、可給態ケイ酸、交換性塩基（石灰・苦土・カリ）可給態鉄の10項目なら精度が高く直ぐに分かるという。また定点観測ではなく測定機が通った側条ではあるが、1圃場における養分のバラつきも色によって濃淡が分かるように示す事も出来る。水分濃度により多少バラつきが出る場合もあるようだが、それも有意差がない程精度はバラつかないとの事。この機械は1日あたり10haほどの圃場を走行することが可能という。レンタルであれば1日5万円だそう。このレンタル費用が高いか安いかは置いといて、人手と手間や時間がかかる土壌分析が異業種の手には掛かれれば機械化され現地で結果が取れてしまうまで進化を見せてい

（次ページに続く）



リアルタイム土壌センシング機

る。土壌分析もとうとうここまで来たかと思ひ知った次第だ。

農業Weekは16日(金)まで開催している。開催事業者は全参加者へのマスク着用、サーモグラフィーによる体温測定、出入り口には消毒液の設置、空調設備による常時喚起、セミナー会場におけるソーシャルディスタンスを保つ座席空間の確保、医師・看護師の常駐等、コロナウイルス感染症予防対策として出来得る限りの対策は講じておられる。初日のオープニングから見学に行ったが、流石に海外からの方の来場者は数える位しかいなかったが人の入りは悪くないようだ。関心のある方はコロナウイルス感染症予防を講じつつ、最新の情報を肌で感じ取って頂きたい。

GoTo道の駅

今年を外出を自粛されている方も多いと思いますが、旅行やドライブをされていますか？全国でGoToトラベルやGoToEatキャンペーンが始まり、これからの時期は紅葉シーズンも始まっていく為、普段手が出ない高級な宿を予約したり、これまでなかなか行けなかった場所にお得に行くプランを立てている方もいらっしゃるのではないだろうか。

3密を考慮し列車での移動を避ける方が多いようで、レンタカーやカーシェアを使用する方が増えている。移動の道すがら、途中で休憩を挟む際、道の駅に立寄る方も多いのではないだろうか。地場の新鮮な農産物・海産物・加工品販売、温泉・スポーツ施設等も併設されている場所もあり、休憩するだけでなくそこを目的として近場のドライブとして訪れるのも気分転換になりそうな場所だ。

さて、この道の駅、全国に何ヶ所あるかご存じでしょうか。道の駅は1993年に全国103駅から始まり、現在では1,180駅(北海道：128駅、東北：165駅、関東・甲信：198駅、北陸：82駅、中部：117駅、近畿：149駅、中国：107駅、四国：88駅、九州・沖縄：146駅)もあり、毎年増えている。市町村等によって設置され、国土交通省に申請・登録された休憩施設と地域振興施設が

一体となった道路施設であり、安全で快適に道路を利用する為の道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトとされている。単体型と一体型という呼び名があり単体型は市町村等が地域振興施設等に加え、駐車場等も単独で整備するもので、一体型は地域振興施設等を市町村等が整備し、駐車場等の一部を道路管理者が整備する形となっている。

九州じゃらんの九州・山口道の駅ランキングで発表されていた第1位の「道の駅うきは」と、第2位の「道の駅むなかた」を訪れてみた。流石は第1位と第2位と言われるだけあり、開店9時前にも関わらず、駐車場はほぼ満車ではと思う程の混雑で開店を待ちわびる長蛇の列が目飛び込んできた。店内に入ると数多くの農作物、海産物等が並んでいる。買い物客は目当ての品を吟味しながら新鮮な野菜、果物、鮮魚を買い物かごへ入れていく。道の駅うきはでは野菜も多いが果物も沢山陳列されており、柿(西村、太秋)、ぶどう(巨峰、シャインマスカット、甲斐路等)、梨(新高)、いちじく、栗と目移りする程。又、小高い台地にある為、見晴らしも良い。道の駅むなかたは農産物も沢山あるが漁港直送の玄界灘の鮮魚の多さに驚いた。真鯛を始め、平政、ヤリイカ、高級魚のクエもあった。店内はカラフルなポップが多く、とても良い雰囲気であった。

道の駅は主要な道路や観光地など各地に数多く点在している。道の駅のガイドブックが販売されているので、全国にどのような道の駅があるのかご興味を持たれた方は書店で買い求めることが出来る。またスタンプラリーも実施しているので、近くの道の駅を巡りながら集めてみるのも面白い。お出かけの際に訪れた事がない場所があれば立寄ってみては如何だろうか。(福岡支店)

弊社休業日にはコロナ自粛後初の遠出をする予定ですが、旅先でも普段と変わらず気を付けて行動しながら楽しみたいと思っています。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>

創立記念日休業のご案内

来る **10月16日(金)** は弊社創立記念休業日にて全社休業させていただきます。
ご了承の程、宜しく願い申し上げます。